

=====
◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.2 ◇◆
2008年10月22日号
=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
ー子どもたちのインターネット利用について考えるシンポジウム
ー青少年立ち直り支援サイトについて
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

早くも、9月の創刊号につづき、犯罪からの子どもの安全メールマガジン第2号の発行となりました。どうぞこのメルマガをまわりの皆さんにどんどん転送してください。

登録がまだな方は、是非、犯罪からの子どもの安全ウェブサイトから登録をお願いいたします！

※犯罪からの子どもの安全ウェブサイト → <http://www.anzen-kodomo.jp/>

さて、皆さんは「まちづくり」というとどのようなイメージをお持ちでしょうか？

私は、かつては砂漠だった土地に次々と超高層ビルが建ち、海には世界地図の島まで出来てしまうドバイのような大都市計画から、多摩丘陵の山を切り開いて住宅地開発といったまちづくりなど、どちらかといえば『作っていく・作られたまちに人が住む』というイメージが最初がありました。

「犯罪からの子どもの安全」領域では、10月から新たに4つの研究開発プロジェクトが始動しましたが、その1つが「計画的な防犯まちづくり」をテーマとしています。

さっそくキックオフミーティングを開催するということで、私たちが参加（サイトビジットと呼んでいます）させていただきました。大学、NPO、企業、自治体と多方面の方が関わるこのプロジェクト。

最初は作られたまちであっても、そこに暮らす人々が思考錯誤してまちは作られていくのだと思います。特に、安全なまちづくりは、地域住民だけではなく多くの方々が関わって作られていくものだと感じました。

※平成19年度採択プロジェクトの情報についてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/>

※平成20年度採択プロジェクトの概要はこちら

→ <http://www.ristex.jp/examin/criminal/detail.html>

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋・・・いろいろですが、秋は学会シーズンでもあります。

昨年度採択プロジェクトの実施者も、日本犯罪心理学会、日本犯罪社会学会などで発表。また、領域担当も研究・技術計画学会で、社会的課題解決に向けた研究開発プログラムの運用と課題と題して、この領域を題材に発表しました。近々、ウェブで資料を公開する予定です。

その他、日本市民安全学会で開催しているオープンカレッジに参加し、最近、警察などでメール配信されている安全情報に関する講演を聞いてくるなど、勉学の秋まっしぐら！？

皆さん、素敵な秋を満喫しましょう♪



●9月30日(火)開催

主催：子どもたちのインターネット利用について考える研究会
社団法人全国高等学校PTA連合会

「子どもたちのインターネット利用について考えるシンポジウム」
(東京千代田区 ホテルニューオータニ) 参加レポート

このシンポジウムでは、本領域でも議論となり、今年の公募でも重視した子どもたちの携帯利用による様々な問題について考える場でした。

昨年度領域のアドバイザーだったお茶の水女子大学の坂元章先生や今年度の公募で採択された群馬大学の下田博次先生などがこのシンポジウムの仕切り役だったこともあり、これは私たちが是非行かなければということで、久しぶりにホテルオークラまで行ってきました。

ゴージャスなホテルオークラの会議室には300名近く(もっといたか?)の人たちが所狭しと席を並べ、先述の坂元先生、下田先生以外にも学校関係者はもちろんのこと、ヤフーやネットスターなどネット関係企業の幹部の面々もパネリストとして名を連ね、この問題が学校現場だけでなく、サービスを

提供している企業側にとっても、企業の社会的責任（CSR）が重要となっている昨今、対応を誤ると死活問題になりかねないということをも十分認識しているなど感じさせるものでした。

一週間前に就任された小淵優子内閣府特命担当大臣が駆けつけ挨拶をされたり、国会からも「青少年ネット規制法」の策定に中心となった民主党の玄葉光一郎議員、自由民主党の葉梨康弘議員の2名がパネリストとして議論に参加したりと、政治からの参加やいろいろなマスコミの取材もあつたりと教育関係にしては珍しくなかなか派手なシンポジウムでした。

後で坂元先生や下田先生と話したところ、先生方もこのような派手な形になるとは予想してなかったようで、苦笑してましたが、このような社会問題を強く世の中にアピールするためにはこのくらいの仕掛けのほうがいいのかもかもしれません。

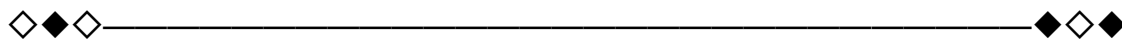
下田先生の「ペアレンタルコントロール」の話や、漆紫穂子品川女子学院校長の「速い、広い、消えない」というネット情報の特徴を短く的確に表現されたことがとても印象的でした。

この後、久しぶりに来たホテルオークラのショッピングアーケードをぶらついてみようかなと思った所、職場より「打合せをやるので早く帰ってこい」との連絡があり、やむなく断念。

またこのようなシンポジウムを次回ここでやるときの楽しみにしておくことになりました。

（企画運営室長 M.S.）

※「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」では、双方向利用型サイトの利用リスク評価モデルを10月末に取りまとめるとのこと。
→ <http://www.child-safenet.jp/>



●「青少年立ち直り支援サイト」について

埼玉県では、10月1日に「青少年立ち直り支援サイト」を立ち上げたとのこと。
<http://www.pref.saitama.lg.jp/A12/BG00/tachinaori/index.html>

埼玉県内の少年犯罪において、刑法犯で検挙される非行少年数は平成16年から19年の期間で見ると、7,601人→5,834人と減少していますが、再び犯罪を犯す少年の割合は28.1%→31.1%と増加しており、非行少年がこれ以上の過ちを繰り返さないように、その立ち直りを支援することを目的にサイトを立ち上げたそうです。

早速サイトを見てみると、立ち直った事例の他、相談先となる国や県、NPO法人などの支援団体のリスト等が掲載してありました。また、パソコンだけでなく、携帯電話用のサイトも設けているようです。

問題や悩みを抱えているとき、「誰かに相談してみようか・・・」と思う瞬間は、ふとしたときにおとずれるものです。そういったとき、24時間どこからでもアクセス可能なツールがあるということは、とても心強いし、きっかけを逃さないという意味でも重要なことですね。

「立ち直った事例」を読んでいて印象的だったのは、相談したことにより、本人だけではなく、家族も共に変わっていったという記述が多かったことです。こういった取り組みには、家族や回りの人たちの理解、協力が欠かせないもの

なんですね。

内閣府では、平成19年度から、11月の第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定め、この期間を中心として「家族・地域のきずなを再生する国民運動」を実施。ちなみに、今年の家族の日は11月16日、家族週間は11月9日～22日です。
<http://www8.cao.go.jp/shoushi/kizuna/index.html>

子どもが被害者となる事件が後を絶ちませんが、家族や地域のつながりが深まり、立ち直りの支援はもとより、子どもたちが安心して暮らせる社会が実現することを願わずにはいられない、今日この頃です。

この領域でも、「地域」と「子どもの安全を守る」をテーマとしたプロジェクトが稼働しています。必然的に多くの人に関与することになるテーマなので、大変なことも多々あるようですが、今後の進展に注目です。

(領域担当 S.F.)

※採択プロジェクトの一覧はこちら
<http://www.anzen-kodomo.jp/program/research/>

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取り組み

犯罪被害者等に関する標語の決定及び「犯罪被害者週間国民のつどい」の開催について（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/hanzai/kou-kei/slogan/decision20.html>

インターネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会（総務省）
http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/policyreports/chousa/internet_illegal/
第8回（9月26日開催）の資料が掲載されています。

平成20年度まちづくり計画策定担い手支援事業の助成団体の第3次募集の開始について（国土交通省）
http://www.mlit.go.jp/report/press/city07_hh_000008.html

その他、今月は「インターネット異性紹介事業」に関する情報（警察庁）など、インターネットに関連する取組みが掲載されています。

その他の取り組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成20年10月24日 平成20年度学校安全推進フォーラム（文部科学省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/gyouji/2008/08090507.htm

平成20年10月25日 2008年度秋季全国大会

「人材とゲーミング&シミュレーション」
(日本シミュレーション&ゲーミング学会)

<http://www.jasag.sakura.ne.jp/article.php?story=20080602123156341>

平成20年10月31日 第1回全国情報セキュリティ啓発シンポジウム
(経済産業省・NPO日本ネットワークセキュリティ協会)

<http://www.jnsa.org/caravan/2008/1031fukui/>

平成20年11月8日 地域安全マップ講座
(神奈川県安全・安心まちづくり推進協議会)

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/enzenansin/mapkouza.html>

平成20年11月18・20日 平成20年度コミュニティ・スクール推進フォーラム
(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/b_menu/gyouji/2008/08092601.htm

その他のイベントについてはこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころはトピックスから、近日掲載予定の
「プロジェクト実施者インタビュー 第2回」です。

前回ご紹介した「平成19年度採択 子どもの被害の測定と防犯活動の
実証的基盤の確立」プロジェクトへのインタビューの第2弾ですが、今回は、
「行動科学」と「情報科学」の2グループへのインタビューをおこないました。

実施者の方も、大学の先生から研究機関や企業の方と幅広く、多様な視点
からのお話が満載で、読みごたえも十分です。乞うご期待！

第1回をまだご覧になっていない方はこちら

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/column/>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

☆1位 プロジェクト実施者インタビュー 第1回
<http://anzen-kodomo.jp/pdf/int01.pdf>

2位 メールマガジン
<http://anzen-kodomo.jp/mail/index.html>

3位 研究開発プログラム
系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクト
http://anzen-kodomo.jp/program/research/n_sakamoto.html

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2008年10月22日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
